平成二十八年四月二十五日

するさま逞しき姿なり。 竹の勢の凄まじきこと驚くべ 每に軟らかき地へ根を伸ばし我が庭にも闖入、松の根を絞附け銘木枯らす被害も甚大なり、 とに収穫多し。七十年程前、 の音にて目を覺ますも心地よし。櫻散る頃より庭先の崖地に筍出で、 先住の數本植ゑたる竹と聞くも今や數百本餘、 し 雪の重みに撓めども折れず、 ふと氣附くや雪掃はれ直立 雨後の筍とてこ 竹藪密集、

春の喜び分つ。 の旨味格別にして冬の疲れ囘復す。 了解を得、 竹の増殖被害止むるは筍を食すに如かず。 此十年來、 古竹を片附け乍ら筍掘は吾が日課なり。 旬菜は壽命を伸ばす縁起物、 國有地私有地入組む隣の崖地なれども近隣の 湯を沸かし直ぐ茹でたる筍 親類友人知人に筍を屆け

懐かしむとあり、 八十路の父の從弟に花見の和歌を添へ筍を送りし禮狀に、 共に古人を偲ぶも筍のゆかしき緣なるか。 歌會始に詠進したる曾祖母を

(平成二十八年六月十三日受附)